

奈良国立大学機構と両大学の取り組みについて、
今回は、主に、7月の動きを中心にお伝えします。

—————▼お知らせの種類▼—————

- A. 両大学共通イベント B. 奈良教育大学の取組
C. 奈良女子大学の取組 D. 法人運営に関すること
E. 榊理事長から

//////////▼注目 Topics▼//////////

- 【A-3】三菱みらい育成財団助成の 2023 年度大学・NPO 等で行う「21 世紀型
教養教育プログラム」に採択（7/3）
【B-1】大学院説明会・オープンキャンパスを開催（7/1,2）
【C-1】奈良女子大学が令和 5 年度大学・高専機能強化支援事業（高度情報専門
人材の確保に向けた機能強化に係る支援）に選定（7/21）
【D-3】次期の大学総括理事（学長）の選考に関するページの開設

//////////

A. 両大学共通イベント

- 【A-1】奈良カレッジズ交流テラスの予約方法を公開（7/6）

https://www.nara-ni.ac.jp/nara_colleges/04_nucross.html

- 【A-2】「なら産地学官連携プラットフォーム」設立に関する学内説明会を開催
（7/14）

https://naraportal.nara-wu.ac.jp/portal/index.html?bbs_id=3439&direct=1&module=office&controller=bbs&exec=detail（学内リンク）

- 【A-3】三菱みらい育成財団助成の 2023 年度大学・NPO 等で行う「21 世紀型
教養教育プログラム」に採択（7/3）

- ・「奈良カレッジズ学問祭」オリエンテーション 7/12（水）
- ・「奈良カレッジズ学問祭」 8/24（木）～8/29（火）
- ・「奈良カレッジズ学問祭」スピンオフ企画 8/30（水）
- ・「奈良カレッジズ学問祭」レポート合評セッション 9/26（火）
- ・「総合知育成コンクール“H2O”」 12/27（水）

<http://www.nara-ni.ac.jp/news/2023/230703.html>

＜開催案内＞

○高等教育の在り方を共に考える－中央教育審議会の最近の動向から－

中央教育審議会委員：後藤 景子先生

- ・日程：令和5年8月1日（火）16:00～17:30
- ・場所：奈良カレッジズ交流テラス（対面）

※zoom による同時配信あり

<https://us06web.zoom.us/j/89812806515?pwd=WkpUVE5xZW9Hc0RWNlUxQzU0UkZlZDZkdz09>

ミーティング ID: 898 1280 6515

パスコード: 564093

○奈良カレッジズ学問祭

- ・「諸学への誘い」のスポット受講：教職員も可能。

みなさまの参加をお待ちしています。

[奈良女子大学教員リンク]

https://naraportal.nara-wu.ac.jp/portal/index.html?bbs_id=3457&direct=1&module=office&controller=bbs&exec=detail (学内リンク)

[奈良教育大学教員リンク]

https://naraportal.nara-wu.ac.jp/portal/index.html?bbs_id=3488&direct=1&module=office&controller=bbs&exec=detail (学内リンク)

○奈良カレッジズ学問祭スピンオフ DAY

- ・タイトル：インキュベーション－異分野とのコラボのための ABC－
- ・講師：ジュリア・カセム先生
- ・日程：令和 5 年 8 月 30 日（水）10:40～16:20
- ・場所：奈良カレッジズ交流テラス
- ・プログラム：添付のチラシのとおり
- ・申込み：<https://forms.office.com/r/xD2SKz5U8S>

※応募多数の場合は、参加者の調整を行います。

https://naraportal.nara-wu.ac.jp/portal/index.html?bbs_id=3410&direct=1&module=office&controller=bbs&exec=detail (学内リンク)

○アドバイザーボード

「ゲリットバウアー先生による講演」

- ・テーマ：Graduate Education in the Future: - Comparison of Graduate Schools in Europe and Japan.
- ・日程：令和5年10月24日（火）

〔川人光男先生と若手教員のクロストーク〕

- ・テーマ：メンタルヘルスと脳科学
- ・日程：令和5年11月29日（水）

〔藤垣裕子先生と辻篤子先生による対談〕

- ・テーマ：科学技術と社会との関係を考える
- ・日程：令和6年3月4日（月）

※これらの詳細は決まり次第、WaWaOffice 掲示板において都度通知します。

※さらに、絹谷幸二先生、金出武雄先生、ジュリア・カセム先生による講演等も計画中です。

B. 奈良教育大学の取組

【B-1】文科省「職の魅力向上と人材確保の好循環を生み出すモデル創出事業」に採択（6/16）

<https://www.nara-edu.ac.jp/model.html>

【B-2】大学院説明会・オープンキャンパスを開催（7/1,2）

大学院入試説明会

https://www.nara-edu.ac.jp/admissions/news_graduate/entry_3_1_1.html

オープンキャンパス

https://www.nara-edu.ac.jp/admissions/news_faculty/entry_3_2.html

【B-3】〈同窓会主催〉まほろば徳・得講座「人事担当者が求める学生」 一面接試験までに知っておくと得する話ーを開催（7/5）

<https://www.nara-edu.ac.jp/assets/mahorobaR501an.pdf>

【B-4】教員による分野横断型の七夕企画を実施（7/7）

<https://www.nara-edu.ac.jp/playful.html>

【B-5】留学プロモーションイベントを実施（7/6~7/19）

<https://www.nara-edu.ac.jp/international/ryugakuinfo.html>

【B-6】展覧会「わたしと風景展」を開催（7/18~7/24）

https://www.nara-edu.ac.jp/mhme/news2023/07/2023_landscape.html

【B-7】『絵っ陶（えっと）』美術教育専修 絵画研究室・工芸研究室 前期制作展を開催（7/22~7/26）

<https://www.nara-edu.ac.jp/event/other/etto.html>

【B-8】音楽教育専修サマーコンサートを開催（7/22）

<https://www.nara-edu.ac.jp/event/other/musicsummer.html>

<開催案内>

○学長と学生との懇談会（ミーティングの部）

・日程：8月8日（火）・21日（月）

○外国人留学生終了発表式・記念品授与式

・日程：令和5年8月3日（木）

・場所：図書館ラーニングコモンズ・山田ホール

○ならやまオープンセミナー公開講座「教室に万葉集を！－大和の万葉歌で教材づくりにチャレンジ－」

・日程：令和5年8月19日（土）

・場所：奈良教育大学

<https://www.nara-edu.ac.jp/graduate/courseindex/2023/06/manyouisyuu.html>

○ならやまオープンセミナー公開講座「教職員のための公開講座」

・日程：令和5年8月4日（金）、8月8日（火）

・場所：奈良教育大学

https://www.nara-edu.ac.jp/graduate/courseindex/2023/06/r5kyousyokuin_summer.html

C. 奈良女子大学の取組

【C-1】奈良女子大学が令和5年度大学・高専機能強化支援事業（高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）に選定（7/21）

http://www.nara-wu.ac.jp/nwu/news/2023news/20230725_1.html

【C-2】文科省「成人年齢引き下げを踏まえた効果的な消費者教育実践モデル構築」事業を受託（6/31）

<http://www.nara-wu.ac.jp/nwu/news/2023news/20230630.html>

【C-3】生理用品の無料提供を開始（7/3）

https://www.nara-wu.ac.jp/nwu/news/2023news/pdf/20230703_1.pdf

【C-4】2023年度広部奨学金授与式を実施（7/5）

http://www.nara-wu.ac.jp/nwu/news/2023news/20230705_1.html

【C-5】古代の甘味料・甘葛煎の味「甘葛シロップ」の記者発表とお披露目を開催（7/9）

http://www.nara-wu.ac.jp/nwu/news/2023news/20230728_1.html

【C-6】日経STEAM2023シンポジウムに参加（7/19）

http://www.nara-wu.ac.jp/nwu/news/2023news/20230724_1.html

<開催案内>

○奈良女子大学 RISE 火曜講座「素粒子論と離散的対称性」

- ・日程：令和 5 年 8 月 1 日（火）
- ・場所：奈良女子大学 コラボレーションセンターZ 棟 306 教室

https://www.nara-wu.ac.jp/nwu/news/2023news/pdf/20230718_1.pdf

○古代学・聖地学センター研究会「和歌の歴史についてー転換期としての『新古今和歌集』ー」

- ・日程：令和 5 年 8 月 8 日（火）
- ・場所：奈良女子大学 文学部 S 棟 327 教室

https://www.nara-wu.ac.jp/nwu/news/2023news/pdf/20230718_2.pdf

○2023 年度第 19 回「若手研究者支援プログラム 下級官人の文学」

- ・日程：令和 5 年 8 月 28 日（月）
- ・場所：奈良女子大学 文学部 N 棟 202 教室

https://www.nara-wu.ac.jp/nwu/news/2023news/pdf/20230704_1.pdf

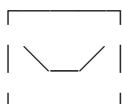
D. 法人運営に関すること

【D-1】両大学の教育研究評議会の委員による「合同情報共有の会」を開催（7/19）

【D-2】午前八時会（若手職員を中心とした意見交換会）を継続開催（第 2 回 7/5、第 3 回 7/21）

【D-3】次期の大学総括理事（学長）の選考に関するページを開設

<https://www.nara-ni.ac.jp/disclosure/oninstitute/senkou/>（学内リンク）



E. 榊理事長から

「国際物理オリンピック 2023 東京大会で考えたこと」

古代ギリシャの諸国家は、4 年に一度は戦いを止め、運動競技に勤しむ平和の祭典の開催を決め、千年余り続けてきました。フランスの教育学者クーベルタン男爵は、この古代の知恵に啓発され、世界中で戦いを止め、運動競技を通じて青少年を育てる近代オリンピック構想を提案、1896 年にアテネで初大会を開きます。1940 年には東京開催が予定されましたが、日中戦争の勃発で中止され、

戦後復興が一段落した 1964 年に開かれています。当時、大学生であった筆者は、オリンピック村で通訳を務める機会があり、日本の女子バレーボールチームなど、金メダリスト達を間近に見る幸運を得ました。約半世紀後の 2020 年大会は、東京での開催が決まりましたが、COVID-19 の蔓延で延期され、翌年に無観客で開かれています。オリンピックは、商業的側面が強くなりすぎたものの、人々が民族や文化の多様性を実感し、平和な国際社会を築く機運を高めるのに貢献していることも確かです。

他方、約半世紀余り前から、世界各国や地域において選ばれた高校生が結集し、物理学分野の理論の課題や実験課題に取り組み、知恵比べをするとともに、友情を育む国際物理オリンピックが毎年開かれてきています。日本も 2006 年以降、代表 5 名を開催地に派遣してきました。2023 年大会は日本が開催国となり、文部科学省と多くの団体や個人のご支援の下で、7 月 10 日から 17 日の間、約 75 の国や地域から約 400 名の高校生が集い、東京の国立オリンピック記念青少年総合センターで滞りなく開かれました。極めて厳しい状況にあるウクライナからも女子 2 名と男子 3 名が参加し、ロシアの高校生 5 名も個人資格で参加し、優れた成績を収めており、国家間の軍事的対立にも拘わらず、国際的対話の場が確保され、参加者のネットワーク作りが進んだことは嬉しいことでした。また、会期中、百数十名の日本人大学生が、外国人高校生の世話役として、また和太鼓や書道などの紹介役として心の籠る対応をしてくれたため、忘れ難い国際交流の場が実現しました。

なお、物理学のコンテストは、A. 実験（2 課題）と B. 理論（3 課題）から構成され、いずれも 5 時間かけて解く形になっています。知識の多寡ではなく、自然現象とその背景にある複数の概念の把握を基に、それらの基礎概念や原理の間の関係を捉える力の優劣を調べ、その上で定量的解明を行う力を計るもので、我が国の高等教育や大学入試を改善するヒントに満ちたものでした。参加者の上位 8 %には金メダル、次の 16%には銀メダルが与えられますが、日本チームは 2 名が金、3 名が銀でした。中国や韓国チームなどは全員が金メダルを受けており、英才教育に国が力を入れていることを窺わせます。また、優れた成績を収めた米国代表の 5 名の内、3 名は中国系、1 名が韓国系の学生で、他民族国家の活力の源泉を垣間見た気がしました。なお、女子学生の割合は、平均で 10~15%ですが、日本が過去 17 年間に派遣した選手 85 名の内では、ただ 1 名に留まっており、事態改善が急務となっています。筆者は、数年前から大会の運営組織の一員として尽力してきましたが、今後は、今回の経験や学びを、日本の若者たちの国際的な対応力の涵養に活かしたいと考えています。

▲▽▲▽▲▽▲▽▲▽▲▽▲▽▲

バックナンバーは以下よりご覧いただけます。

<http://www.nara-ni.ac.jp/news/narakoku/index.html>

また、学内掲示板以外のメールでの配信をさせていただいている方で、配信停止をご希望の方は、お手数ですが、somu02@jimu.nara-wu.ac.jp まで、その旨お知らせください。

▲▽▲▽▲▽▲▽▲▽▲▽▲▽▲